

28 飯業務発第 314 号
平成 28 年 10 月 6 日

水道事業職員各位

上下水道部長 町田 靖

平成 29 年度水道事業予算編成方針について

平成 29 年度の予算編成方針につきましては、平成 28 年 9 月 30 日付け 28 飯財政発第 149 号による市長通知のとおりです。同通知によると地方交付税は前年度から増加したものの、歳入の根幹を占める市税収入は前年度から減少し、国庫負担金及び補助金も削減される一方で、公債費や扶助費などの経常的・義務的経費の増加により本市の財政状況及び今後の財政見通しは非常に厳しいとのことです。

こうした中、水道事業においては水道料金を改定し、企業の立地等により有収水量が増加したことから平成 27 年度は給水収益が回復し、供給単価が給水原価を上回り利ざやが発生しました。

しかしながら、給水人口の減少傾向により今年度以降に同様の増収は見込めず、一方で老朽化や、有収率低下の対策として施設の更新需要の増加は避けられないため、事業経営が厳しい状態であることに変わりはありません。

また、平成 29 年度は、「飯能市水道ビジョン（経営戦略プラン）」と、同計画を基本とする「飯能市水道事業中期経営計画（前期）」の 2 年度目となります。ビジョンで掲げた基本理念と 4 つの観点及び投資財政計画、中期経営計画（前期）に示した実施事業の概要を今一度よく踏まえ、責任感を持って予算編成を行うことを要請します。

平成 29 年度予算編成における基本方針（市長通知抜粋）

- 1 市民生活に密接で重要な施策や総合振興計画に掲げるシンボルプロジェクト等を着実に推進するとともに、集中豪雨による土砂災害や地震など広域的に被害を及ぼす災害が不安視されている中、災害に強く市民生活の安全・安心を守る取り組みの充実を図ること。
- 2 自立した持続可能なまちづくりを進めるために、事業の選択と集中に留意し、行政が自ら変わることを基本として、施策の優先性や有効性について十分に検証を行うこと。
- 3 本市の特性を生かした新たな財源の確保や活性化の戦略思考により、一層の健全財政を目指し、必要最小限の経費で最大の行政効果や市民満足度の向上が図られるよう、次により財源を捻出することとする。
 - (1) 経常経費の削減
 - (2) 普通建設事業の順位付け
 - (3) 既存事業の見直し
 - (4) 歳入の確保（補助金等の活用、ふるさと納税制度活用の推進、自主財源の確保など）
 - (5) 健全財政に向けて（持続可能な財政構造の構築に向けた取り組みの推進）